

委託事業実施内容報告書

平成26年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(B)】

受託団体名 特定非営利活動法人教育活動総合サポートセンター

1. 事業名称

ともに学ぶ日本語学習支援事業

2. 事業の目的

- ①デジタルストーリーテリング(DST)作品の制作のプロセスを通し、外国につながる子どもや外国人市民の日本語による自己表現を促し、自尊感情を高める。学校や区役所などの行政機関と課題を共有する。
- ②日本語でのコミュニケーションが十分でない外国人市民と学校や区役所など関係機関との『仲介役』として活躍できるバイリンガル外国人市民を育成する。日本人とともにやさしい日本語にするプロセスを通して、日本語のレベルアップを図る。学校や区役所の子どもにつながる関係機関の制度や内容も学ぶ。

3. 事業内容の概要

- ①デジタルストーリーテリング(DST)の手法により、外国につながる子どもたちや日本で生活する外国人市民自らが、自国の文化習慣や日本での生活上の問題点がわかる映像を作成する。映像作成のための自分の思いを日本語で作文する自己表現の作文教室とする。その自ら作成した映像についての上映会を関係行政機関の職員や地域住民ともに開催し、課題解決に向けたワークショップなどを開催する。
- ②外国人市民が、子育て関係や学校の通知文等を通して、日本で生活するために必要な情報を日本人市民とともに『やさしい日本語』にする過程を通してともに学ぶ。また、「ともに学ぶ」活動が続けてきた幸日本語学級の人的リソースを活かし、外国人市民自らが社会参加することをエンパワーメントする取り組みを行う。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成26年 6月20日 (金) 13:30~15:30	2時間	幸市民館	須磨修一、樋口万喜子、佐藤公孝、高島正晶、石渡伸幸、池田恵子、中村高明、齋藤元	①文化庁事業受託までの経過説明②平成26年度事業計画について『ともに学ぶ日本語支援事業』として、(1)デジタル・ストーリー・テリング(DST)による日本語支援事業(2)「やさしい日本語」学習支援事業③デジタル・ストーリー・テリングについて説明と作品上映④DSTによる日本語支援事業(第1回)の様子の報告	①DSTによる日本語支援事業:ふりかえり、受講生との共有、記録・報告を。日本人も自分事と考え交流が深まる。日本人には見えない視点があるのでねらいの精査を。日本語を介して人がつながる事業に。②「やさしい日本語」学習支援事業:日本人がやさしい日本語で伝えることを学ぶ。役所も同様。親にやさしい日本語で情報を流せば学校にも生徒にもメリットがある。
2	平成26年 10月24日 (金) 10:00~12:00	2時間	幸市民館	須磨修一、佐藤公孝、高島正晶、石渡伸幸、池田恵子、中村高明、齋藤元	①DSTによる日本語支援事業(1):作品上映・目標達成状況・成果・改善点・次回への展望②「やさしい日本語」学習支援事業:目標達成状況・成果・改善点・今後の展望	①DSTによる日本語支援事業(1):言葉だけの支援ではなく丸ごと受けとめる必要がある。一人一人に価値があり、見方が変わる。日本人に変わるきっかけを与えてくれる。もともと地域・学校など様々なところでいろいろな人に見てもらいたい。②「やさしい日本語」学習支援事業:役所の文書は一律で、もらう方の視点で考えてないことが多い。やさしい日本語でアプローチすることが大切。
3	平成27年 2月24日 (火) 10:00~12:00	2時間	幸市民館	須磨修一、佐藤公孝、高島正晶、石渡伸幸、池田恵子、中村高明、齋藤元	①DSTによる日本語支援事業(2):作品上映・目標達成状況・成果・改善点・次回への展望②本事業全体の体制整備に向けた取組の目標達成状況・成果・改善点・今後の展望	①DSTによる日本語支援事業(2):一人一人に価値があり、見方が変わる。日本人に変わるきっかけを与えてくれる。もともと地域・学校など様々なところで広める努力をしてほしい。②本事業を遂行するにあたり、NPO法人教育活動総合サポートセンターを中心に、NPO法人日本語教科学習支援ネット、川崎市地域日本語教育推進協議会、川崎市総合教育センター、幸区役所、幸区多文化共生推進事業実行委員会、幸市民館日本語ボランティア、幸市民館にほんごワールド、幸国際子育てクラブトンなどの機関・団体のほか、日本語教育の専門家として樋口万喜子らの協力が得られたと考える。

5. 取組についての報告

○取組1: デジタル・ストーリーテリング (DST) による日本語支援事業

(1) 体制整備に向けた取組の目標

外国につながる子どもたちや外国人市民の思いを日本語で言語化する支援をし、自尊感情を高める。地域社会での存在意味を確認することにつなげる。外国人市民等が地域で生活する上での課題を解決するために、必要な支援づくり、多文化共生のまちづくりをめざす。

(2) 取組内容

①外国につながる子どもたちや外国人市民がグループ対話をする。テーマ(私のふるさと・教育)について思いや考えを語り、その後対話を行う。②語ったことを日本人とピアでマインドマップ、ポストイットを使い整理する。③日本人とピアで対話をしながら、エピソードを3つ程度(1つの場合も)交えた思いを1000字程度にまとめる。④書いたものを音読練習する。自分の声で録音する。⑤PCで編集する。自分の声を聞きながら心象風景を写真や画像を取り込み作品制作をする。⑥制作者同士の作品を上映会し対話を行う。⑦地域住民や関係行政職員など向けの上映会と対話会を行う。

(3) 対象者

川崎市南部に居住する外国につながる子どもたちや外国人市民、および地域の日本人市民、関係行政職員

(4) 参加者の総数 107 人

出身・国籍別内訳

中国	7人	インドネシア	1人	ボリビア2人、パキスタン2人
韓国	3人	タイ	2人	
ブラジル	2人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	4人	
ネパール	人	日本	84人	

(5) 開催時間数(回数) 42 時間 (全 14 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 6月15日 13:30~ 16:30	3時間	幸市民館	9人	中国(3人)、 フィリピン(2人)、 ブラジル(1人)、 日本人(3人)	DSTって?グループ対話しよう①	DSTの紹介をする。作品を上映する。作品制作者の体験談を聞く。2グループに分かれてグループ対話をする。3つの出来事を書く。	古屋恵子・小澤真人・片桐文雄(講師)	池田佳代・池田恵子
2	平成26年 6月22日 13:30~ 16:30	3時間	幸市民館	9人	中国(3人)、 タイ(1人)、 ボリビア(1人)、 日本人(4人)	マインドマップで書くことをイメージしよう①	日本人と対話をしながらマインドマップを作成する。3つの出来事についてその時の気持ちを思い出しながら内容を深める。	樋口万喜子・片桐文雄(講師)	池田恵子
3	平成26年 6月29日 13:30~ 16:30	3時間	幸市民館	12人	中国(4人)、 タイ(1人)、 パキスタン(2人)、 日本人(5人)	短い文で書こう①	それぞれの出来事について、日本人と対話をしながら、自分の思いや気持ちに即した日本語にし、文章を書く。	古屋恵子・片桐文雄(講師)	須摩修一・池田恵子
4	平成26年 7月6日 13:30~ 16:30	3時間	幸市民館	8人	中国(4人)、 タイ(1人)、 日本人(3人)	文をつなげよう・書いたものを読んでみよう①	全体の推敲をする。800~1000字程度にまとめる。作文を読む練習をする。	頼田敦子・片桐文雄(講師)	池田恵子
5	平成26年 7月13日 9:30~ 12:30	3時間	幸市民館	9人	中国(4人)、 タイ(1人)、 インドネシア(1人)、 ブラジル(1人)、 日本人(2人)	映像編集しよう①	録音をする。写真や画像を使って編集をする。	樋口万喜子・須摩修一・片桐文雄(講師)	池田佳代・佐藤将之・池田恵子
6	平成26年 7月13日 13:30~ 16:30	3時間	幸市民館	11人	中国(4人)、 タイ(1人)、 ブラジル(1人)、 パキスタン(2人)、 日本人(3人)	映像編集しよう・制作者同士の上映会をしよう①	写真や画像を使って編集をする。できあがった作品を制作者と日本人サポートで内部上映会をする。	樋口万喜子・小澤真人・片桐文雄(講師)	池田佳代・佐藤将之・池田恵子

7	平成26年 8月30日 13:30～ 16:30	3時間	幸市民館	61人	中国(6人)、 タイ(1人)、 ブラジル(1人)、 ボリビア(2人)、韓国(1人)、 フィリピン(1人)、日本人(49人)	公開上映会 ①	自己紹介をする。作品の簡単な紹介をする。上映会を行う。制作の感想を言う。グループに分かれて、日本人との対話を行う。	頼田敦子・小澤真人・片桐文雄(講師)	須摩修一・池田恵子
8	平成26年 11月23日 13:30～ 16:30	3時間	幸市民館	15人	中国(3人)、 韓国(3人)、 タイ(1人)、 ブラジル(2人)、ベナン(1人)、 アメリカ/日本(2人)、日本人(3人)	DSTって？グループ対話しよう②	DSTの紹介をする。作品を上映する。作品制作者の体験談を聞く。2グループに分かれてグループ対話をする。3つの出来事を書く。	樋口万喜子・小澤真人・片桐文雄(講師)	須摩修一・池田恵子
9	平成26年 12月7日 13:30～ 16:30	3時間	幸市民館	13人	中国(2人)、 韓国(2人)、 ブラジル(2人)、 フィリピン(1人)、 アメリカ/日本(2人)、 日本人(4人)	マインドマップで書くことをイメージしよう②	日本人と対話しながらマインドマップを作成する。ポストイットを使い出来事に関連づけを整理する。	頼田敦子・片桐文雄(講師)	須摩修一・池田恵子
10	平成26年 12月14日 13:30～ 16:30	3時間	幸市民館	14人	中国(3人)、 韓国(2人)、 ブラジル(1人)、 フィリピン(1人)、 アメリカ/日本(2人)、 日本人(5人)	短い文で書こう②	出来事とその時の思いを日本人と対話しながら深め、自分の思いや気持ちに即した日本語にし、文章を書く。	古屋恵子・小澤真人・片桐文雄(講師)	須摩修一・池田恵子
11	平成26年 12月21日 13:30～ 16:30	3時間	幸市民館	11人	中国(1人)、 韓国(2人)、 ブラジル(1人)、 アメリカ/日本(2人)、 日本人(5人)	文をつなげよう・書いたものを読んでみよう②	全体の推敲をする。800～1000字程度にまとめる。作文を読む練習をする。	樋口万喜子・片桐文雄(講師)	須摩修一・池田恵子
12	平成27年 1月18日 9:30～ 12:30	3時間	幸市民館	8人	中国(2人)、 韓国(2人)、 タイ(1人)、 フィリピン(1人)、 日本人(2人)	映像編集しよう②	録音をする。写真や画像を使って編集をする。	古屋恵子・須摩修一・片桐文雄(講師)	池田恵子
13	平成26年 1月18日 13:30～ 16:30	3時間	幸市民館	13人	中国(2人)、 韓国(2人)、 フィリピン(1人)、 アメリカ/日本(2人)、 日本人(6人)	映像編集しよう・制作者同士の上映会をしよう②	写真や画像を使って編集をする。できあがった作品を制作者と日本人サポートで内部上映会をする。	古屋恵子・小澤真人・片桐文雄(講師)	須摩修一・池田恵子
14	平成27年 2月11日 13:30～ 16:30	3時間	幸市民館	60人	中国(6人)、 韓国(4人)、 ブラジル(3人)、 タイ(1人)、 ベナン(1人)、 アメリカ/日本(2人)、 日本人(43人)	公開上映会 ②	自己紹介をする。「ことばの力」「子育て・教育」「子どもの声」の3部会に分かれて上映会を行う。作品の簡単な紹介をする。制作の感想を言う。対話会を行う。	樋口万喜子・小澤真人・片桐文雄(講師)	須摩修一・池田恵子

(7) 参加者の募集方法

参加者の募集は、幸市民館だより、幸市民館HP、チラシによって行いました。

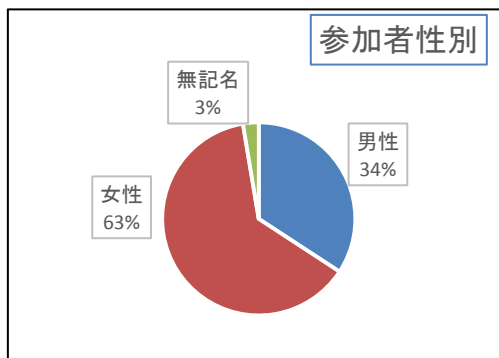
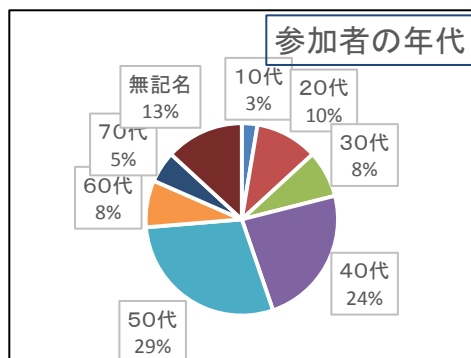


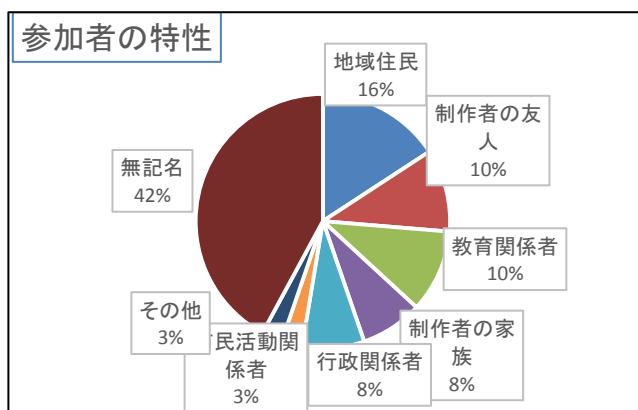
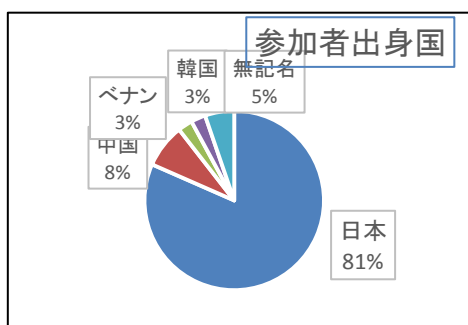
(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



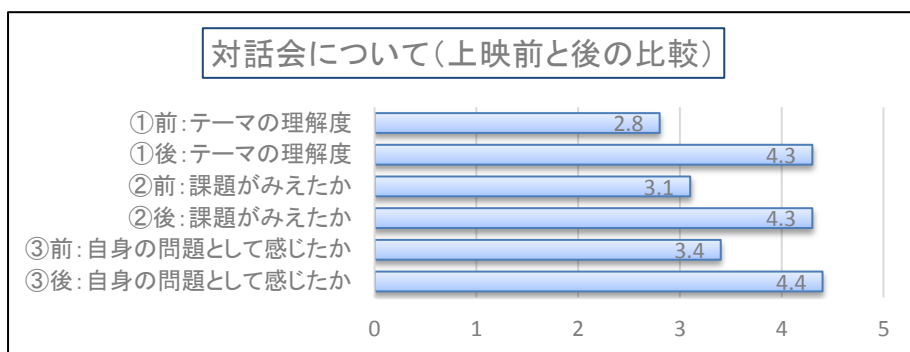
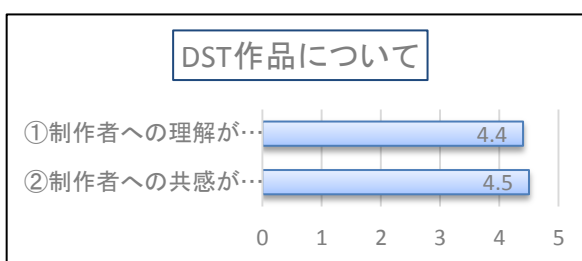
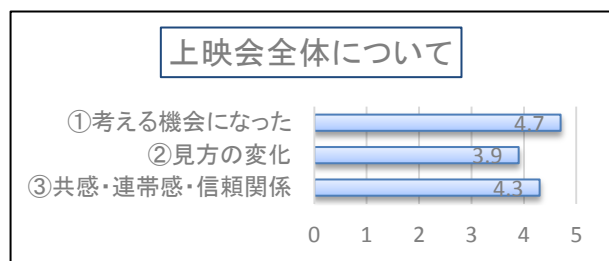
(9) 取組の目標の達成状況・成果

1 上映会のアンケート結果





アンケートの参加者の年代や特性のから、上映会は外国人制作者（以下、制作者）にとって、地域の様々な方と話を
 する機会になったことがわかる。また、制作者以外にも外国人の参加者があり、ともに考えることができた。



いずれの設問にも、上映～対話のプロセス前と後では差がみられ、上映・対話後の理解等の促進がみられた。参
 加者は、テーマ及び地域の共生の課題に関心を抱いたと思われる。

2 DST制作者の日本語の習得

本取り組みにおける制作者の日本語の力の評価を制作者へのアンケート、聞き取りにより検証を行った。

- グループ対話：日本語レベルの違う人の話を聞いて、表現方法が学べた。（聞き取りより）
- 日本人サポーターとマインドマップやポストイットで書くことを整理：日本人サポーターと対話をするなかで、ぴったりの表現が見つかった。（アンケートより）
- 日本人サポーターと対話による作文：自分の気持ちが日本語で伝えられるようになった・なりたかった/文の構成のアドバイスがうけられてよかった/書く事が勉強になります。もっと勉強しないといけないと思いました/思ったことを書くのは大事だと思った/日本語の文章力がつきました。そして、ほかの国の友達や先達とかかわりながら勉強するのはとてもたのしいです/社会問題や経済など複雑なことが言えた。（アンケートより）
- DST制作のための音読・録音・編集：発音を直してもらえてうれしかった/自分の声（言い方）では伝わっていないことがわかった（聞き取りより）

第1回目のテーマは『わたしのふるさと』で、過去の事実と自分の思いを話し言葉から書き言葉への移行レベルの範囲で書くことができた。また、日本人サポーターとの対話で、閉じ込めていた、あるいは忘れていた思いが表出し、その思いを日本語で言語化し、深い気持ちを表現することができたようだ。

第2回目のテーマは『教育』で、来日後の自身の日本語教育のこと、お子さんの子育て・教育のこと、小中学生は日本の学校のこと・出身国（滞在国）のこと・出身国（滞在国）との比較など、自分の経験を踏まえ、自分の考えなどを整理しながら日本語で言語化していった。考えを整理して日本語で伝わる表現が学べた。

滞在年数の長い外国人制作者は、日本語の力の伸びは感じられなかったようだが、書くことで客観的に自分の日本語の力をみることができたようだ。

滞在年数が5年前後の制作者は、日常会話にはそれほど不便を感じず暮らしているため、日本語に不自由はそれほど感じないが、滞在年数の長い外国人制作者とのグループ対話などで、自分の日本語の力をみつめることができたようだ。さらなる日本語のレベルアップへのモチベーションアップにつながったようだ。

3 DST制作・上映会・対話会を通しての課題共有について

第1回目のテーマ『わたしのふるさと』の制作過程では、日本での生活と出身国のことは切り離して考えていた制作者が多いことがわかった。自分の幼い頃や日本に来るまでの過去をふりかえって、人間関係のなかで生きていたことを思い出し、今の自分とつながり、今の自分にむきあえるようになった制作者もいた。来日15年以上もたつのに出身国のことは1度も日本人に話したことがなかったという制作者もいたし、日本人が自分の話に興味をもって聞いてくれる経験は一度もなかった制作者もいた。また、国は違うが幼いころの体験が似ていることも多く、日本人サポーターとも、そして制作者同士とも、共感が生じ、お互いの関係が深まった。上映会・対話会では、作品上映を通して、地域住民の方からの感想や質問を聞いて勇気づけられたり、自分が今日本にいることや自分自身の存在が承認され、自己肯定感が高められたのではないだろうか。作品制作後、アルバイトを始めた制作者もいた。

第2回目のテーマは『教育』で、DST作品制作のプロセスで学べたことは第1回目と同様である。小中学生は学校で書くことは日常的に行っているが、一斉教育のなかでは、本当の自分の気持ちに向き合い、その思いや気持ちを書くことはなかなかできない。本取り組みにより、自分一人に向き合ってくれる大人との出会いがあり、自分自身の本当の気持ちを見つめることができたのではないと思われる。上映会では、できたDST作品のそれぞれの内容から『ことばの力』『子育て・教育』『子どもの声』の3部会に分け、上映会・対話会を実施した。上映会の一般日本人市民・一般外国人市民の参加者（以下、参加者）からは、全部見たいという声が大きかったが、3つのテーマから1つ選択してもらった。

上映会では、1作品事に感想を聞き、その感想を大事にすることで、制作者は存在そのものが承認され自尊感情が高まったと思われる。参加者も作品を見て、自分事としてとらえた発言もあり、共感が生じ、制作者との関係が深まったと思われる。また、参加者がテーマを選択したことも功を奏したように思われる。各部会での対話では、それぞれ『寛容さ』（ことばの力）、『日本人の横並び』・『不寛容』（子育て・教育）、『日本人の和』・『多様性』（子どもの声）がキーワードになり、対話が促進された。制作者が感じている生活やことばにおける課題を知ることができ、対話会で深めることはできた。さらに参加者が個々に問題をもちかえり、日本の地域社会の課題を考えるきっかけとすることはできたのではないと思われる。日本や日本人に対して一方的な見方をしていたが、上映会で参加者の日本人の考えを知ることができ、日本にあわせていけないといけなかったとか、日本人の集まりに入ってみようと思えるようになったと考えが変容していた制作者もいた。また、制作後、中学生は部活に入会したり、ある制作者は来日間もない外国人のサポートをしたいとか、次の行動につながった制作者もいた。

（10） 改善点について

働いている方や小中学生も参加できるように、そして川崎市内の日本語学級の行われていない日曜日に設定したが、家族の用事等で参加できない日もあり、設定した日程では間に合わなかった制作者も出てきた。個別にフォローするケースもあった。制作者よりプロセスの中で学ぶことが多いが、作品の完成に追われていた。活動の期間をもう少しほしいという希望もあったので、もう少し余裕のあるスケジュールを組みたい。グループ対話には参加したものの、日頃あまり書くことをしていない方は書くことに抵抗を示し、途中で挫折した方もいた。次年度は、ハードルをさげて、書くことに抵抗をなくすような取り組みを入れていきたい。

上映会・対話会で、生活者としての外国人の問題点や課題などが、地域の日本人市民が知るきっかけになることはわかったので、地域や学校などでもっと上映会・対話会をやっていききたいと思う。

○取組2:「やさしい日本語」学習支援事業

(1) 体制整備に向けた取組の目標

保健福祉センター児童家庭課や学校の保健に関する文書を『やさしい日本語』にするプロセスに、保健師や養護教諭、日本語教育関係者、地域住民がピアで関わる。外国人市民の日本語学習支援をし、中核になる外国人市民の育成をする。中核になる外国人市民と日本人サポーター、行政との連携で文書を『やさしい日本語』にして、地域で生活するために最低限必要な『やさしい日本語』化された情報をだれもが継続的に利用できるようにする。

(2) 取組内容

①外国人市民も日本人市民も『やさしい日本語』について学ぶ。②保健師や養護教諭を招き、保健福祉センター児童家庭課や学校の保健室の機能や仕事の内容を外国人市民も地域住民も学ぶ。③保健福祉センターや学校からの保護者向けの文書やニュース・子どもの権利条例を地域住民とピアで『やさしい日本語』にする。④学習の成果を関係行政機関に提供するとともに、ワークショップ等で地域住民への理解を進める。

(3) 対象者

川崎市南部に居住する外国人市民および日本人市民及びその子どもたち

(4) 参加者の総数 19 人

出身・国籍別内訳

中国	4人	インドネシア	人	ボリビア1人、インド2人
韓国	3人	タイ	人	
ブラジル	人	ペルー	人	
ベトナム	1人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	8人	

(5) 開催時間数(回数) 20 時間 (全 8 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	内容	講師等氏名	補助者氏名
1	平成26年 7月29日 9:30~12:00	2.5時間	中原市民館	12人	中国(2人)、 韓国(2人)、 ボリビア(1人)、インド (1人)、ベトナム (1人)、日本人 (5人)	やさしい日本語のガイダンス①	やさしい日本語の意義を解説する。ニュース記事について、全体の構成、文の校正、表記、文法、語彙、表現について考えたあと、やさしい日本語にする。模造紙に書いて発表する。書き換えるときの留意点(1~4)を整理する。日本語読解学習支援システムを利用して日本語レベルチェックをする。	古屋恵子(講師)	池田真貴・池田恵子
2	平成26年 7月31日 9:30~12:00	2.5時間	中原市民館	11人	中国(2人)、 韓国(3人)、 ボリビア(1人)、インド (1人)、ベトナム (1人)、日本人 (3人)	やさしい日本語のガイダンス②	やさしい日本語に書き換える時の留意点(5~8)を整理する。日本語能力試験3級・4級の日本語レベルを知る。川崎市環境局のHPをやさしい日本語にする。模造紙に書いて発表する。	頼田敦子(講師)	加藤真帆子・池田恵子
3	平成26年 8月5日 9:30~12:00	2.5時間	高津市民館	6人	中国(1人)、 ボリビア(1人)、ベトナム (1人)、日本人 (3人)	学校からの おたより①	川崎市の小学校の養護教諭の話(仕事・外国につながる子どもや家庭とのやりとりで困ること・結核とは・結核検査の流れ)を聞く。質問応答。『結核健康診断における検査の実施について』を日本人とペアでやさしい日本語にする。模造紙に書いて発表する。	頼田敦子(講師)	池田真貴・池田恵子
4	平成26年 8月7日 9:30~12:00	2.5時間	高津市民館	8人	中国(2人)、 ベトナム(1人)、日本人 (5人)	保健福祉センターからの お知らせ①	保健福祉センターの保健師の話(仕事内容・外国につながる子どもたちや家庭に関して困ることを聞く。わからなかったことを質問する。『3ヶ月児健康診査へのお誘い』を日本人とペアでやさしい日本語にする。模造紙に書いて発表する。	古屋恵子(講師)	加藤真帆子・池田恵子

5	平成26年 8月19日 9:30～12:00	2.5時間	高津市民館	6人	韓国(2人)、 ボリビア(1人)、インド (1人)、日本人(2人)	学校からの おたより②	日本、出身国の災害時の対応について話す。災害に関する語彙を学ぶ。やさしい日本語の留意点を再確認する。『暴風警報及び暴風雪警報発表時等における臨時休業について』を日本人とペアでやさしい日本語にする。模造紙に書いて発表する。	樋口万喜子(講師)	池田真貴・池田恵子
6	平成26年 8月21日 9:30～12:00	2.5時間	高津市民館	11人	中国(2人)、 韓国(2人)、 ボリビア(1人)、インド (1人)、ベトナム(1人)、 日本人(2人)	保健福祉センターからの お知らせ②	『BCG接種のお知らせ』を読む。クイズに答える。予防接種に関する語彙をやさしい日本語表現にする。出身国の予防接種について聞く。『BCG接種のお知らせ』を日本人とペアでやさしい日本語にする。模造紙に書いて発表する。	古屋恵子(講師)	池田真貴・池田恵子
7	平成26年 8月26日 9:30～12:00	2.5時間	高津市民館	9人	中国(1人)、 韓国(2人)、 ボリビア(1人)、インド (1人)、ベトナム(1人)、 日本人(3人)	学校のおたより③	やさしい日本語でニュース(NHK News Web Easy)を読む。土砂災害について話す。川崎市防災情報ポータルサイトの文章をやさしい日本語にする。『市立中学校に在籍する生徒における食物アレルギーに関するアンケート&そのお願い』を日本人とペアでやさしい日本語にする。模造紙に書いて発表する。	頼田敦子(講師)	加藤真帆子・池田恵子
8	平成26年 8月28日 9:30～12:00	2.5時間	高津市民館	12人	中国(2人)、 韓国(2人)、 ボリビア(1人)、インド (1人)、ベトナム(2人)、 日本人(4人)	川崎市子どもの権利条例	「子どもの権利条約」について話し合う。自分の子どものところと今の子どもの同じところ/違うところを話し合う。権利、条約/条例について話し合う。「子どもの権利条約」についてユニセフ訳と政府の訳を見比べる。『川崎市子どもの権利条例』を日本人とペアでやさしい日本語にする。模造紙に書いて発表する。	樋口万喜子(講師)	加藤真帆子・池田恵子

(7) 参加者の募集方法

募集方法は、幸市民館だより、幸市民館HP、チラシによって実施。



(8) 特徴的な活動風景(2～3回分)



環境局のHPからごみの収集方法についての説明を「やさしい日本語」にする実習。

(9) 取組の目標の達成状況・成果

以下の参加者アンケートをもとに目標達成状況と成果について検証を行った。

①外国人参加者の学びについて(↓アンケートほぼ原文のまま)

日本語の表現力など色々なことが勉強になった/難しい言葉を簡単な言葉にかえるととてもわかりやすい/日本人の方と一緒に考えながら文を作ると日本語力をのばすことができる/新しいことばをおぼえました/漢字の勉強になりました/むずかしい文章をやさしい日本語でおぼえられるのがとてもいいです/外国人にとってやさしい日本語はためになります。むずかしい言葉は理解できません/お互いに理解できると思います/やさしい日本語をつかうことができました/いっしょに考えるのはいろいろなことが勉強できると思いました/児童健康診査についてわかりました/今日のテーマ(災害)や話題は必要です。わかりやすいです
＜その他感想など＞とても楽しかった/楽しく勉強できている/もっと勉強したい/(日本人が)うまくサポートしてくれてよかったです/むずかしいが面白い/市からの方ともいろいろ情報交換できてよいと思いました/みんなと一緒に考えて楽しかったです

②日本人参加者の気づきについて(↓アンケート原文のまま)

＜取組について＞自分を中心に考えずに、聞く相手を中心に話かけるべきだった/外国人の理解しにくいところがわかった/外国人と一緒に考えることに意味があった/元の文にとらわれてしまうことが多かった/役にたつ意見があり協働の意義を確認しました/外国人に教えて自分の日本語能力も高まったし、外国人に教えてもらえることができたので楽しかったです/中国人以外の外国人は日本語を勉強するのが大変だと改めて感じた/練習にもなり、学ぶことが多く、有意義だと思った。楽しく学ぶことができた/一緒に考えることで生の声が聞けてよかった/自分だけではやさしい日本語にできないと思います
＜やさしい日本語について＞外国人とのお話で自分の日本語を見直すことができた/漢字を使う国と使わない国の人たちがいるので文を変えるのがむずかしい/知っておくべき言葉はそのまま使い、それに説明をつけるといいと思った/漢字圏の方と非漢字圏の方ではやさしい日本語への反応の違いが大きい/日常生活でつかう言葉は変えられないので前後にある言葉を書き換えればわかりやすく伝わると思う/必要なことを単純な文章で伝えることの大切さ/現場の先生から実際にお話をお聞きできて現場ならではの苦労、声を聞いたことが良かったです/実施者の保健師さんに伺いながら、やさしい日本語に置き換えるとより役立つものになると実感しました/相手の目線に落とす訓練になりました/文章のつながりの言葉がわかりづらいことに気づけました。
＜その他学んだこと＞講師の先生の「日本のニュースをリアルタイムで知っていることは、日本人とのコミュニケーションや言葉をキャッチする上では大切」は、なるほどと思いました。

『やさしい日本語』化できた文書は多くはなかったが、『やさしい日本語』化するプロセスでともに学ぶことができた。学校の養護教諭や保健福祉センター児童家庭課の保健師さんが参加してくださり、機関の機能や仕事の内容、結核検査や健康診査のシステムなどについて詳しく話をきくことができ、学習者はもちろんのこと、日本人サポーターも知らないことも多く、お互いに学ぶことが多かった。学習者から、出身国の子どもの健康等に関するシステムや状況も聞くこともできて、日本人サポーターも保健師さんも養護教諭も学ぶことがあった。また、親が日本語が十分に話せない・読めないご家庭の中学生の参加もあり、子どもが訳したり、通訳したりしている状況もみえてきた。小学校高学年程度でも理解できる『やさしい日本語』化をめざし、『やさしい日本語』化のプロセスで、講座の中で学んだことを反映させることができた。日本人サポーターは学習者とピアで『やさしい日本語にする』プロセスの対話を通して、学習者にとってどんなことばや内容がむずかしいか、理解できないのかを知り、どういった日本語の表現が理解しやすいかを一緒に考えることができた。
学習者の中から中核になれるような方に、それぞれの通知文のタイトルを母語に訳してもらい、多言語タイトルのやさしい日本語版を作成することができた。今回の取り組みでは、地域で中核になれるような外国人サポーターを育成することができた。
学校の文書については、総合教育センターのホームページにアップできる予定である。保健福祉センター児童家庭課の健康診査の文書も外国人市民の保護者には個別に配布することが検討されている。

(10) 改善点について

『やさしい日本語』のガイダンスを学んだ後、2回は保健師さんと養護教諭の方に参加していただき、具体的な話を直接聞くことができたが、他の回は文書から情報を読み取らなくてはいけなかったため、学習者によっては負担もあった。
→行政や学校など関係機関の職員にも参加してもらい、職員から話を聞いて『やさしい日本語』化するほうが負担が少ないと思われる
→次回は連携できそうな関係機関の職員に声をかけ、事業にも参加してもらいやさしい日本語で説明してもらう。また『やさしい日本語』化のプロセスを通して学習者も日本人サポーターも職員もともに学ぶ場とする。

今年度は成果を地域住民に広げるようなワークショップができなかった。→『やさしい日本語』を日本語学級のボランティアなどふだん外国人市民に関わっているような方々とのワークショップをまずやってから、地域に広げる工夫を探りたい。

6. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

- ①外国につながる子どもや外国人市民の自尊心を高めながら日本語による自己表現を促し、学校や区役所などの行政機関と言語的マイノリティーの抱えている課題を共有する。
- ②日本語でのコミュニケーションが十分でない外国人市民と学校や区役所など関係機関との『仲介役』として活躍できるバイリンガル外国人市民を育成するため、日本語のレベルアップを図る。

(2) 事業目的の達成状況

取組1では日本で働く両親に呼び寄せられた生徒や帰国生、また日本で生活をする外国人市民が、日本人サポーターと対話をしながら、自身の経験や思いなどを日本語で表現することができた。それを文章だけでなく、画像と自身の声とともに作品にし、その作品を一般の市民の方や行政や学校、その関係機関の関係者などにむけて、上映と対話をするにより、言語的マイノリティーが抱えている課題や思いを届けることができた。上映会に参加された方や、運営委員会のメンバーはその問題を認識することには役立ち、対話をすることでさらに深めることができた。また、取組2では、養護教諭や保健師さんにも講師として参加していただき、学校や保健福祉センターの児童家庭課から保護者に配られる重要な文書を日本文化や習慣やその背景も学んだ上で、日本人サポーターとともに一般外国人市民にわかりやすい『やさしい日本語』にすることができた。『やさしい日本語』にするプロセスやその発表を通して、外国人同士がチームになることができた。『仲介役』となれそうな学習者に、訳してもらいタイトルだけは多言語にすることができた。外国本事業を遂行するにあたり、NPO法人教育活動総合サポートセンターを中心に、NPO法人日本語教科学習支援ネット、川崎市地域日本語教育推進協議会、川崎市総合教育センター、幸区役所、幸区多文化共生推進事業実行委員会、幸区子ども学習サポート、幸市民館日本語ボランティア、幸市民館にほんごワールド、幸国際子育てクラブトントンなどの機関・団体のほか、日本語教育の専門家として樋口万喜子、頼田敦子、古屋恵子らと連携協力することができ、目的を達成することができた。

(3) 地域における事業の効果、成果

川崎市幸区周辺に居住する外国人市民は、多国籍にわたり、分散しているため、同国人のコミュニティも少なく情報が十分でないが、取組1、2を通して、外国人同士が交流をもてるようになった成果は大きい。また、取組1に地域で生活されている外国人の参加があったことも今後の広がりにつなげていかれると思われる。取組2では子どもの学校での面談や保健師の訪問などの際、日本語でのコミュニケーションが十分でなく、日本の子育てや教育について理解できないこともあるが、今回の取組の参加者のなかには、これから地域参加しよう・したいという方も出てきた。多文化環境のなかでの子育て・教育をしている方や『仲介役』になってもらえそうな方には日本の文化・習慣・考え方を知るいい機会になった。地域ですでに活動していたり、日本語学級で長く学んでいる日本語およびコミュニケーション能力の高い外国人市民の力を活用し、地域の多文化共生のまちづくりの担い手として活躍できるような場および日本語の学びの場をつくることができた。また社会参加への一歩となった方もいる。地域住民の方や行政や学校やその関係機関の方が、言語的マイノリティーの方の課題ややさしい日本語の必要性を認識することができた。取組2の『やさしい日本語』は各部署でおのおのに対応していることがわかったので、NPO教育活動総合サポートセンターや総合教育センターなどから、外国人市民にとって『やさしい日本語』になるような試みを広げていきたい。本事業を報告をする中で、さらに『やさしい日本語』の必要性を周知させていきたい。認識を深めてもらうことで、全体として、川崎市の日本語教育に影響を与えられたい。

(4) 改善点、今後の課題について

i 現状

本事業(取組1)によって、既存の川崎市内市民館における地域日本語教育事業での識字学習(日本語教室)では、通常、体験できないような新しい学びの手法によって、自分の思いや考えを話し言葉から書き言葉へ表現することができた。思いを日本語の言葉にして、書き、まとめる作業の中で、自分の考えを整理することができ、さらに、DST作品を上映し、作品を多くの人に見てもらうことで、承認される欲求や達成感を満たすことができたと考えられる。

本事業(取組2)によっては、地域住民の方や行政や学校やその関係機関の方に、言語的マイノリティーの方の課題や『やさしい日本語』の必要性を認識していただくことはできた。行政機関の各部署では、『やさしい日本語』にする必要を感じ、対応はしている部署もあるが、ひらがなのみの表記であったり、漢字にルビがふっているだけの文書も多く、『やさしい日本語』への理解が一般的に進んでいるとは言えない状況である。

ii 今後の課題

取組1については、新しい日本語学習の手法としてDSTを活用することにより、外国人市民の自己表現につながれるので、これを契機に、さらに多くの方に出来上がった作品を見てもらい、各自の話をし、人に聞いてもらう(認めてもらう)機会を多く作りたい。多くの人に見てもらうことで、外国人市民の持つ課題を日本人も共有でき、ともに課題解決に向かう契機とすることができる。それには、今後も、新たな学習の機会を確保することが課題となる。取組2については、『やさしい日本語』のさらなる理解と普及をすすめることで、外国人市民と日本人がともに同じ文言をみて、一緒に考えることが可能になることがわかった。学校や行政機関では、多くの情報を発信しているため、多くの学校や行政機関に『やさしい日本語』を理解する人間がいることが望ましいと考えられる。『やさしい日本語』のへの一層の理解を進めるために、普及活動が必要である。

iii 今後の活動予定

取組1については、「ともに学ぶ」ためにDST手法を継続したいが、文章に書くところで、ハードルが高く断念した方もいたので、次年度は、書くことについても、学習の時間を取り入れていきたい。市民館の識字学習においては、会話中心になっているため、書くことが十分学習する時間がないが、市民館の通常の事業の枠組みの中にも、取り入れていくことができないか検討する。

取組2については、『やさしい日本語』の普及に向けて、学校や行政からの外国人市民に向けたお知らせを、ともに学ぶことを広げたい。こちらについても、市民館の事業や学校・区役所等の職員向け研修会に取り入れることができないか検討する。

(5) その他参考資料